

アーカイブ Data Report

NO. 47

(2020年9月26日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

平和教育のための沖縄の戦前・戦中・戦後の資料共有のための保管について ～情報の共有のためのメタデータの検討～

又吉 斎 (沖縄女子短期大学)、眞喜志悦子 (岐阜女子大学)

沖縄は先の太平洋戦争(第二次世界大戦)で多くの人々が犠牲となり、戦争によるこの地域の破壊は、今も沖縄の人々の心に深く残っている。しかし、当時の戦争体験者は、すでに80歳以上になり、また、地域の様子も大きく発展してきている。

このため、次の世代に沖縄戦、さらに、前後の状況の伝承が困難な状況になってきている。とくに、次世代への伝承として、教育に必要な情報を伝承することが重要な課題である。

1 沖縄での戦前、戦中、戦後の情報の共有化

沖縄には、たとえば、毎年1万人以上が利用している県、各地域の博物館、図書館、学校等での当時の資料の保管がなされてきた。しかし、その全体的な情報の保管および体系的な整理がなされていなく、教育情報としての活用、次の世代に伝承する共有化が必要とされる。

この共有化にあたっては、戦争の状況および戦争によってどのように変わったか、戦前、戦中、戦後の変化が見える情報の提供が必要である。

また、沖縄戦を始め、日本の戦中・戦後の資料は、米国公文書館にも保管されている。



沖縄戦の戦火から逃れるため仲本實氏が親戚らとともに避難した自然壕内(クラシंगाマ)



同 自然壕内から出入り口方面



戦前の不況時に食用にしたソテツの処理方法

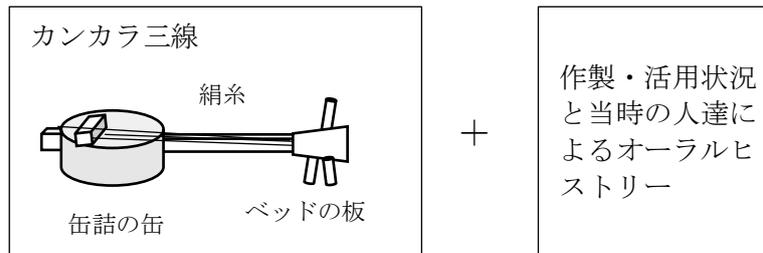
2 関連資料の必要性

教育資料（情報）としては、映像などの単体の情報提供と併せて関連資料（情報）の提供が必要である。

たとえば、カンカラ三線は、石川収容所に収容された人達が楽器の代用として缶詰の缶とベッドの板、落下傘の絹糸、ケーブルなどを使い、三線の代わりに作られたものである。（仲本實先生の戦中・戦後のオーラルヒストリーにも、収容所でのカンカラ三線作りの当時の様子が話されている。）



カンカラ三線について話す仲本實氏



収容所の何も無い状況が、沖縄の人々の音楽に対する思い、愛する心がカンカラ三線を作り出した。この状況を単なるカンカラ三線の図や映像だけでなく、当時の様子をオーラルヒストリーとして保管することが教育的な資料として重要である。

また、戦中、戦後の資料、資料館等での情報の管理、それに合わせた当時の人々の話が、教育的には、大変重要になる。このように、関連資料（リンク情報）をいかに整備するかが教育的な課題である。このため岐阜女子大学では、戦前、戦後の状況をオーラルヒストリーとして当時をどのように受け止め、考えたかを記録に残している。

3 沖縄戦中・戦後資料のメタデータの整理と保管

国会図書館等の統合ポータルサイトのメタデータの基本的な項目は、4W（いつ、どこで、誰が、何を）を中心に考えられている。しかし、沖縄戦の教育用の資料（情報）については、4Wではなく、そこに至った理由、方法、（教育）活用の結果などが重要であり、

5W1H「（いつ、どこで、誰が、何を）＋（なぜ、どのように）」を基本要素とするメタデータの構成が必要である。

各、博物館、図書館、学校等で保管している資料、さらに、米国公文書館等の海外の資料で、映像と4Wのメタデータでは、教材としての基本構成に欠け、5W1H（ときには、教育結果教材として使った結果）も重要な情報となる。

関係機関でこれらのメタデータを整理し、いかに共有化を図るかが現在の1つの課題である。

現在、沖縄県内外および海外（例 米国公文書館等）の戦中、戦後の資料（情報）を各地、機関で収集、整理し、全国的に各学校で平和教育、歴史の教材として利用できる整備が当時の体験者の年齢的な状況から急がれる。

また、これに対応できる保管のメタデータの構成の研究が、本学だけではなく、広く関係機関の協力のもと共有化が可能な開発研究が適する。（尚、教育的なメタデータはすでに、谷、加藤、櫛等の協力で試案ができています。今後、多くの機関との調整、協力のもといかに共有化が可能か検討を進めています。）